

文化遺産とツーリズム

— 世界遺産登録が観光地にもたらす影響について —

高木 辰太郎

要旨本文

世界遺産への登録と観光地化にはどのような関係があるのだろうか。本研究で検討する世界遺産とは、国内において登録された世界文化遺産とし、2022年までに登録されたものを対象とする。世界遺産への登録に即して観光地化の進んだ都市について研究された例はあるが、観光地化の原因として観光客の流入やその変容の違いについて詳しく研究された例はない。

そこで本研究では、世界文化遺産の活用と保存には、観光客の急激な増加と減少を抑える必要性を明らかにすることを試みた。国内の世界文化遺産について、年間の訪問客数のデータから世界遺産へ登録した年を境に集計するとともに、各登録地の行う訪問客の流入への規制や流動対策の傾向を調査した。また、暫定リストに記載された資産群と国内の世界文化遺産で観光客の受入体制について比較を行った。その結果、世界遺産への登録を契機に訪問客の急激な増減がみられる文化財が多く見られた。このことから、世界遺産への登録による悪影響は、観光客の急激な増加と減少が原因であることが示唆される。問題の解決には、観光客の受入体制の拡充は、もちろんのこと観光客の行動の制御を自治体が積極的に行う必要があると考える。観光客の急激な増加と減少に影響を与えることであろう他の要因については、総量規制や誘導対策などのより詳細な検討が望まれる。結果として、世界文化遺産の活用と保存には、観光客の急激な増加と減少を抑えることが必要であると証明された。